

**SSHAC手法に基づく原子力サイトの確率論的
地震ハザード評価
(5) SSHAC実施計画書について**

中島正人

電力中央研究所 原子力リスク研究センター

原子力学会 企画セッション

27th March ,2016

SSHAC実施計画書の策定について

- 実施計画書 (Project Plan or Work Plan) とは
 - SSHACガイドライン (NUREG-2117) で示された手法に基づき、対象サイトの確率論的地震ハザード評価を行う際の、検討手順および検討内容を記述したもの。
 - 品質保証プランの策定・実行、プロジェクトのスケジュール等も記載される。
 - 構築されたSSC/GMCモデルに基づく実際の確率論的地震ハザード計算は、HID (Hazard Input Document: ハザード入力文書) という別文書で記述される。
- 実施計画書の意義・目的
 - SSHACガイドラインで示される、SSHAC Level 3, Level 4の構造・手順・必要案件に基づき、プロジェクト体制、対象サイトの諸条件を考慮した技術的評価内容および予想されるハードル、現実的なスケジュール、品質保証プランなどを明確にした【実サイトを対象としたプロジェクトの設計図】である。
 - プロジェクト参加者全員が理解・共有すべき情報でもある。

SSHAC実施計画書で掲載すべき事項

1. 序論とスコープ
2. 役割と責任
3. 重要な作業
 - 実施計画書の品質保証策定および実行
 - プロジェクト参加者 (PTI, PM, PPRP, RE, PE, Hazard Analyst 等) の選出基準
 - データベースの構築
 - キックオフ会議・ワークショップの準備, 各会議における目的および参加者の役割, コミュニケーション方法, 文書化, レビュー
4. スケジュール
5. プロジェクト成果物
6. 技術的なリスクと軽減方法
7. 参考文献

SSHAC実施計画書に関して日本で留意すべき事項

- 【プロジェクト位置付け&結果の適用先】(発表(3)でも述べたとおり)米国ではSSHAC手法に基づく地震ハザード評価は規制要求案件であるが、日本では規制要求案件ではない。よって、「序論とスコープ」においてその背景・実施意義に記述・説明する必要がある。
- 【技術的観点】SSHACガイドラインに基づく手法を日本のサイトに適用する場合、SSC(地震発生源特性化)、GMC(地震動特性化)について両者独立に進めるだけでは不十分。相互の緊密なFeedbackが必要不可欠となる。
- 【プロジェクト運営】SSHAC手法(特にレベル3, レベル4)では、プロジェクト参加者の役割と責任が実施計画書に明示され、遂行が求められる。SSHAC手法の最重要部分を満たしながら、かつ修正・変形・開発が必要な点について、SSHAC専門家によるレビューを依頼することが必要かつ有用と考えられる。